

運輸区 とうほう 第四十四号

危険なホーム①

お客さんは慣れちゃった？

今回紹介する2例は、私自身（蘇我・車掌）は、あまり行かない箇所ですが、前から気になっていたので取り上げてみました。あまり苦情も聞かないようですが、そこを利用する人たちは慣れてしまっているのでしょうか。事故につながるかもしれないという視点での点検摘

発活動も、労働組合の大事な仕事かと思えます。

まっくら？成東駅1番線

成東駅改札側の松尾方、屋根が外れて20mほどの区間ではありますが、照明もなくまっ暗です。その先、ホーム末端まで照明は3箇所しかありません。右上2枚の写真は、上が屋根を外れてすぐの問題の区間、



成東駅1番線、問題の20m区間

上写真の東方、ホーム端まで

下がその先、松尾方の少し明るい区間です。写真では分かり辛いですが、この真っ暗な区間に、4、5人ほどが下り列車を待っていました。

（撮影日は4月16日、19時頃で、0番線乗務員室付近を軸にして、業務用タブレットにて撮影し、その画面をスマホで写真を撮りました。）

やばいすき間？！

八幡宿駅、上りホーム

8両の最後部からの写真です。一番後ろの乗り口はホームから20cm以上も離れています。これが10両だと、更にもう少し開くかと思えます。

スマホを見ながら、乗車する人も多い中、もし足を踏み外したら、大怪我になります。そこで頭でも打ったら・・・利用者から苦情はないのでしょうか。



事故の芽を
摘み取ろう！

うたてつ ノスメ 32

あずさ2号（狩人） 1977年3月

明日 私は旅に出ます
あなたの知らない人と二人で
いつかあなたと行くはずだった
春まだ浅い 信濃路へ

行く先々で 思い出すのは
あなたのことだと分かっています
その寂しさが きっと私を
変えてくれるとしたいのです

さよならは いつまでたっても
とても言えそうにありません
私にとって あなたは今も
まぶしいひとつの青春なんです
8時ちょうどの あずさ2号で
私は私はあなたから 旅立ちます

さわやか兄弟デュオのデビュー曲にして最大のヒット。このコーナーでは第4号の「アメリカ橋」以来、2度目の登場。このコーナーで取り上げる鉄道ソングの中では、一番知名度が高いかも。歌詞は1番のみ記載。作詞は竜崎知子、作曲は都倉俊一。列車名が曲名になるのも、ありそうであまりない。誰もが思う・・・と思うが、何でこんなに未練たらたらなのに、別の男と旅に出ちゃうの??である。男と一緒に旅先で「思い出すのはあなたのこと」？何じゃそりゃ！でも2番の歌いだして「あなたを待って季節に取り残された」「そんな気持ちのあせりが・・・」とあり、「あなた」に対して得も言われぬ

不安があった・・・でも忘れられない・・・ということか。第三者的に言ってしまうと「そんな男、1日も早く忘れて、幸せになれよ」・・・ってとこだけだ。

この曲で有名な鉄道ネタは、何で下り列車（新宿発、信濃方面行き）なのに2号（偶数）なんだ？というものである。これは、この曲が出来た当時は、下り上り全てに1号、2号・・・が存在していたのだという。下りが奇数、上りが偶数と現在のように改められたのは、何と次の年のダイヤ改からだった。

なので、もし、この曲が次の年の発表だったらタイトルは「あずさ3号」サビは「8時ちょうどの あずさ3号で・・・」となったかも？